

NPO 法人

希望

NEWS

発行 NPO 法人希望 広報
四街道市四街道 1-6-11 田中ビル 3 階
TEL・FAX 043-421-6645
E-MAIL kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp
HP <http://kibou-donguri.org>

2019年 7月 No39

巻頭エッセイ

～笑顔を見たいから～

監事 小林征司

若いころ「仙桂和尚」という僧侶の話を聞いたことがある。
禅院に人を集め理路整然と説法をすることが僧侶のあるべき姿であったはずだが、桂仙は参禅もせず、ただ野菜を作り飢えに苦しむ周囲の人たちに分け与えた。
民衆の欲するものが何か。それを知るには心の目線を民衆に合わせなければならない。
己の欲や立場にとらわれては民衆の心には近づけない。
人を知り、己を捨てて人々の本当の求めに応える。
これぞ真の道者だと訓えられた。

(民衆が求めるものには目を向けず、己の党派と自己保全のために、大声を張り上げ腕を振り回しながら自己主張を繰り返す。民主主義だから多数決は最善の議決方法、そんな錦の御旗を振りかざし数を頼んでごり押しを通すどこかの国の政治家たちに爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。)

無言で人の道を説く。宣伝も弁明もしない。ただ人の欲するところへ心を通わせ、人のために尽くす。それらは、初めての恋に目覚めた娘の目、幼子を見つめる母親の目などに見られる優しく柔らかだが力強いあの眼差しに似てはいないか。
己のためでなく愛する者のために何ができるのか心を砕く。
そのように相手を思い遣る気持ちでお互いに心を働かせたら・・・。
誰もが見えない傷を持っている。その傷にうっかり触れたら血を噴き出すかもしれない。だがそんな悲しい傷痕も、心のこもった温かな掌で包まれたらその温かさに胸を熱くして涙を流すのではないか。

周囲の目線を計算しながら外的動機による偽善を繰り返すのではなく、自らを相手に同化させて内的動機からの細やかな気配り。そうなれるようにいつも心がけていたい。
だが、決して口に出してはいけない言葉。
「あなたに好かれたいんじゃない。あなたに幸せになってほしいだけ」



筆者の小林征司さんは、今次総会で監事に選出されました。

「希望」通常総会が開かれました 新理事・監事を選任

理事長に賀川さん 副理事長に戸田さん・猿橋さん

令和元年度「希望」の通常総会が、6月22日午後1時30分から総合福祉センターで開催されました。当日は49名の会員が出席（委任出席 25名）し、来賓として佐渡斉市長さん、矢口廣見社協会長さんら多くの方々がおいで下さいました。

平成30年度の、事業報告、活動計算（決算）監査報告などを承認し、令和元年度の事業方針と活動予算が決定されました。

また、今次総会は理事並びに監事の改選期に当たります。定数9名の理事（1名欠員）の内4名の理事が退任し、新たな5名を加えた9名の理事が選任されました。監事は2名定数の内、1名が重任、新監事が1名選出されました。

こうして今後2年間の執行体制が整いました。

総会後ただちに開かれた第1回理事会で、理事長・副理事長の互選が行われ、新理事長に賀川知彦さん、副理事長には戸田由紀子さん（重任）猿橋芳生さん（新任）がそれぞれ選任されました。会員の皆さん、向こう2年間のご協力を従前同様お願いします。

季節の詩

「居るだけで」 作 とも

何も話さないで ただ傍に居てくれる
そんな あなたはまるで「花」
心が咲き誇っている

深呼吸したら もっと「花」を感じられるかな
優しさを吸い込んで
私も「花の心」を培いたい



障害のある身にとって障害の

無い環境を社会に望む

作
小林修 短歌

法律に自立をしろと言われるが
生きているだけで自立だと思ふ

母のため付けた手すりやスロープが
今は私の支えにもなる

—編集子雑感—

「ホープ会報」6月号に、例会で会員が話し合った内容が掲載されていました。その中の一つに「当事者は何もしないように見えるが、頑張っている。認めてやる。」という声が載っていました。さすが家族はきちんと観てる、そして温かい。

一方で、関係者も辛く心痛めるような事件がありました。引きこもりの対応の一つがどんぐり工房ですし、グループホームの開設も同じ意味を持つと言えます。

私たちは今後も、みんなで決めた路線を肅々と歩む。それが「希望」です。 Y.